

平成 23 年国立市議会第 2 回定例会

2011 (平成 23) 年度 6 月

# 施政方針

2011 (平成 23) 年 6 月 10 日

国立市長 佐藤 一夫



本日は、私にとりまして初めての定例市議会でございますので、施政方針の表明をさせていただきます。

去る5月1日に市長に就任し、早くも一か月がたちました。ご支持いただきました市民の皆様からの大きな期待と山積している課題を前にして、市長職の責任の重さを実感するとともに、諸課題解決への使命感に燃えているところでございます。

さて、3月11日に発生した東日本大震災においては、地震、津波の被害に加えて福島第一原子力発電所の事故もあり、復興には未だ程遠く被災地への長期的な支援が必要な状況にあります。

市長の最大の使命は「市民一人ひとりのいのちと健康、そして財産を守ること」であると考えています。復興に向けた取り組みの中から、人の力がつながること、「絆」の大切さを再確認いたしました。私は、そこに住む人同士が思いやりを持って安心して暮らし続けられるつながりを大事にしたいと考えています。

今般の選挙では、「病気になっても、しょうがいを持って、安心して暮らし続けられるまちをつくる」ことを公約に掲げてたくさんのご支持をいただきました。その根底にあるものは、人のつながり・絆の大切さであり、それを機能させる仕組みづくりであると認識しています。まず、この実現に向けて全力で取り組むことを皆様にお約束いたします。

私は谷保で生まれ育ち、城山の豊かなみどりや湧水などの自然の恵みを満喫して成長いたしました。国立市は長い歴史と豊かな自然を有する南部地域と、JR中央線を中心とした住宅・学園都市の二面性を持っています。しかし、私は国立のまちは一つのまちであるという当たり前の信念により、これからのま

ちづくりを考えていきたいと思っております。

市政の運営には、古き良き国立と新しい国立を肌で知っている強みと、誰にも負けない国立への愛情を最大限に活かしてまいります。

また、行財政改革やまちづくり、地方分権に伴う事務移譲の問題など、まちづくりの課題は多々ございますが、皆様のご意見を賜り、職員を信頼し関係機関と連携しながら、実務遂行型行政の実践に、先頭に立って取り組んでまいります。

それでは、私の考えております重点施策について、大きく 4 点に分けてお話をさせていただきます。

## 1 国立市民のいのちと健康を守る

### ～市民一人ひとりが安心して暮らし続けるためのまちづくり～

国立市においても高齢化が着実に進展しています。本年 5 月 1 日現在の高齢化率は 19.1%で「高齢社会」という状態にありますが、今後、平成 27 年度には 23.8%、平成 32 年には 26.1%になるという予測データもあります。国の使う定義によりますと 21%を超えると、「超高齢社会」という新たな段階に入ります。現在でも老老介護や認認介護、高齢者の支援など多くの課題があります。

今後の超高齢社会を安心して迎えるにあたっては、地域での支え合いの体制を確立するとともに、365 日 24 時間安心の在宅療養が可能となるシステムづくりが鍵となると考えています。この実現に向けて、医療、介護、地域社会、行政等の多職種連携を密にしてまいります。

また、私がこれまで介護や医療など福祉分野に関わって学んできたことのひ

とつに「予防に勝る治療なし」という言葉があります。健康づくりや趣味、社会参加等、生きがいにつながる場の提供などの施策を更に向上させて予防に力を注ぎます。

今回の震災で、災害に対する行政の備えや危機管理体制の不備が明らかになりました。「想定外」の事態ということで済ませるには、あまりに被害が大きく、行政の大きな役割の一つである「いのちを守る」ために、現行の対策の見直しが進められております。

被災地から遠く離れた国立でも、続く余震や放射線の問題、計画停電、ガソリン・飲料水等の不足などの事態に直面し、市民の皆様も大きな不安の中で日々過ごされたことと思います。特に高齢者やしょうがいしゃの方々の心配は大きかったこととお察しいたします。

万が一不測の事態が起こっても、市民同士が思いやりを持って支え合える、安全・安心なまちづくりが必要です。これも「予防に勝る対策なし」、発災前にどれだけ備えができるのかが大切です。国立市の災害対策本部が設置される市役所の本庁舎を始め、市民の皆様の利用の多い公共施設の耐震化を着実に進めてまいります。

また、被災時に一人暮らし高齢者やしょうがいしゃの方々の救助するためには、あらかじめ所在の確認が必要です。今年度の予算で災害時要配慮者避難支援のためのモデル事業が地域限定で予定されておりますが、これを地域の皆様とともに丁寧に作り上げ、今後の拡大につなげてまいります。

緊急時の安否確認、そして救助に確実につながる仕組みを構築し、最終目標として「1人も見逃さないまち国立」の実現のため、個人情報に十分配慮したセーフティネットづくりに努力いたします。

## 2 国立のまちの景観と賑わいをつくる

### ～国立ブランドの景観と賑わいを活かすまちづくり～

私は、先人たちの努力によって作り上げられてきたこのまち、国立が大好きです。古くは甲州街道の街村集落として発展してきた谷保地域に始まり、大正末期から昭和期にかけては現JR中央線を軸にしたまちづくりがなされ、そして戦後に文教地区に指定されたことによって現在の国立市の骨格はでき上がってまいりました。したがって、国立のまちづくりを考えると、「国立のまちは一つである」という当たり前の考え方に基づき、東西南北の地域を相互に補完し合いながらそれぞれの特色を生かしたまちづくりを目指します。

現在、JR中央線の高架事業が終盤に向かい、駅周辺の土地利用が急がれますが、現在の慣れ親しんだ景観や生活実態を考えますと国立駅前の再整備を軽々に考えることはできません。また、地権者であるJR東日本旅客鉄道株式会社、株式会社プリンスホテル、東京都等との十分な協議が必要であると考えます。さらには、現下の市財政の状況も考慮しますと熟慮の上慎重な判断が必要です。

しかしながら、まちの活性化には日常の継続的な活動が必要であります。

その第一段階として、国立の特色を最大限に生かした賑わいのあるまちづくりを目指し、大学通りに交通規制を施し、隣接の一橋大学キャンパスまでの地域を面として一体的に捉え、市民が自由に集い楽しめる「自由市民広場」の実現に努力してまいります。

また、景観については、都市景観形成条例を見直して更に美しいまちづくりを進めてまいります。国立の景観は市民の財産であり、まちのステータスを高めるくにたちブランドの大きな柱です。

景観を守るには、大前提として市民の皆様の合意としっかりしたルールが必要と考えます。事前の丁寧なルールづくりと手順をしっかり守った責任ある行政を進めます。

また、国立のまちのブランドと呼ばれるものに魅力ある商店街があります。さまざまな情報誌やテレビでの取材も多く、国立のイメージアップやまちの活性化に大きく貢献していただいています。これは個々の商店主の皆様の創意工夫、経営努力の賜物と認識しておりますが、震災の影響で仕入れや物流への影響、イベントの自粛傾向などによる間接的な影響が出ているとかがっております。商工業振興とともに雇用の拡大についても行政の課題です。さらに高齢化が進展する中で、商店街は「コミュニティの核」としての役割も期待されています。地元の皆様をはじめ、国立市商工会など関係者の皆様とともに振興策を考えてまいります。

さらに、国立には美味しい地元産の野菜もあります。私は、古き良き国立の原風景を知る者の一人として南部の自然や景観、農地の大切さを実感しております。自然や農地の保全の課題については、市民の皆様と同じ目線で一緒に議論していけると考えております。農業施策については、すでに生き生き都市農業推進事業が関係者の皆様の参加を得て進められておりますが、まちの賑わいとの連動や市民とのつながりなど、より実効性を高めるために力を注いでまいります。

### 3 法やルールを守り、赤字市政からの脱却を図る

～行政のムダ遣いを徹底して洗い出し、市民目線の行財政改革～

国立市は、ご承知のとおり住民基本台帳ネットワークを 2002（平成 14）年 12 月に切断しております。住民基本台帳ネットワークについては、2008（平成 20）年 3 月の合憲との最高裁判決、また、本年 2 月 4 日には、国立市長を被告とする住民訴訟において、離脱は違法との東京地方裁判所の判決もありました。

また、今般の選挙において、私は住民基本台帳ネットワークの接続を公約として当選させていただきました。この間、多くの市民が住民票やパスポートの取得、年金の現況届の手続き、税の電子申告等での不便を強いられておりました。また、懸念されていた個人情報の漏洩についても、このシステムが稼動して 9 年近くになりますが、ネットワークの不備による漏洩事故は 1 件もございません。

市民生活への支障を一刻も早く取り除くため、本定例会には接続の費用を補正予算に提案させていただいております。

なお、住民基本台帳ネットワークに関する公金支出差止等（住民訴訟）請求控訴事件、明和マンション裁判に関する損害賠償（住民訴訟）請求控訴事件につきましては、ともに控訴の取り下げをいたしました。

次に行財政改革についてですが、公約としておりました特別職の報酬及び退職手当の削減については、「市長等及び教育長の給与及び退職手当の特例に関する条例案」として、早速、本定例会に提案させていただいております。

また、市職員の給与につきましては、他市に比べて 2010（平成 22）年 4 月 1 日現在のラスパイレス指数が高い状況にあり、現在のような財政状況下で市民の皆様の理解は得られないと判断しております。見直しに当たっては、職員の



士気を下げないよう子育て世代への配慮や、より職責に応じたものとするなどのメリハリをつけた給与体系の是正に取り組んでまいります。

また、喫緊の課題である財政の健全化については、市民目線とともに専門性を持った判断が必要と考えております。財政硬直化の原因、あるいは事務事業の見直し等歳出面の分析に加えて、民間活力の導入並びに国立の風土に合った企業誘致を進める等歳入確保を図るべく、学識経験者や市民、商工業事業者等で構成する（仮称）国立市財政問題調査会 のような機関を立ち上げるなどの手法を検討してまいります。

#### 4 国立の子育て・子育てに責任を持つ

～「子どもは宝、教育文化は国立の誇り」という視点での教育行政～

子どもは家族の宝であり、地域の宝でもあります。子育てについては、最近では「イクメン」なる言葉もよく聞かれるようになりましたが、現状を考えますとまだまだ母親の負担が大きい状況にあります。

将来を担う地域の宝として、子育て・子育てを地域でサポートする仕組みが必要と考えています。更に保育園の待機児童の解消や安全・安心まちづくり条例を制定し、子育て環境を整備し「子育てなら国立」と安心して暮らしていただけるよう取り組んでまいります。

また、核家族化の進行や地域社会の変化によって近隣との関係が希薄になった影響でしょうか、社会の風潮が全体的に自己中心主義となっているように見受けられます。私は、家庭におけるしつけや公共心の醸成、郷土愛を育むことを軽視してはいけないと考えております。子どもたちには、国立市に愛着を持ち、公共心や社会の基本的なルールを身につけ、立派な地域の一員として活躍

できるようになってほしいと考えております。

次に、国立市は、まちかどのサロンや喫茶店などで日常的に絵画展やコンサートが開かれるなど、文化・芸術が特別なものではなく身近な生活空間の中に溶け込んだまちであります。私も常日頃楽しませていただいておりますが、文化・芸術は人々の心に潤いを与え、国立市のブランドイメージの向上にも貢献するものです。国立の誇るべき国立らしい文化・芸術の振興にも取り組んでまいります。

以上、私の市政への思いを述べさせていただきました。

まちづくりの諸課題を解決し、前進させていくためには、市民の皆様をはじめ市議会議員の皆様、国や東京都、関係団体の皆様との対話を重視して市政運営を行ってまいります。骨身を惜しまず精力的に動いてまいります。

今後の皆様のご協力とご支援を心からお願いして、私の施政方針とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。